

YUKA

ここではない、どこか

「手に職をつけたい」「自分ならではの仕事で、ありがとうを言ってもらいたい」とずっと思っていました。それは、幼い頃から、小学校の教師をしていた母の姿を見て育ったからかもしれません。

大学卒業後、新卒で入社したものの程なくして、「ここじゃない」と感じていました。でも「これがやりたい」「これが得意だ!」という何か明確なものがあるわけでもなく、「ここではない、どこか」を見つけて、もがいていた時期が3年4年と続していました。そんな時、思わずきっかけで「ホームページの作り方」を知る機会がありました。

シンプルなソースコードを書くだけで、文字や写真が表示される。PhotoshopやIllustratorは、使い方さえ知りれば絵を作ることが出来る。小さい頃から絵を描くのが苦手だったわたしには驚き

で、ホームページってこんな簡単に作れるんだ!これならわたしにも出来そう!それに何より楽しそう!というのが「ホームページ」に対する第一印象でした。

転職、Web業界へ

ホームページ制作に「これだ!」と思った感覚だけで会社を辞め、Webのスクールに通い始めました。3ヶ月余りでカリキュラムを終えて、未経験者OKと募集が出ていた半年間の期限付きのプロジェクトに採用してもらいました。当時27歳、遅すぎる転職だと思っていました。

時給は1,000円。当然、会社に勤めていた時より収入は減り、行き先不透明な状況に焦りや不安は常にありました。でも、お金をもらいながら実務経験が積める、スクールで学んだことを実践できる。喜びの方がずっと大きかったことを覚えています。

また、ラッキーなことに、そのプロジェクトは半年間でしたが「未経験だけれどこれからWeb制作に携わっていきたい」という人たちと出会えた場でもありました。互いに情報交換したり、自作サイトのレビューをし合ったり。同じような志を持つ仲間ができたことは、「ひとりじゃないんだ」と心の支えになりました。

半年間のプロジェクトが終了すると、その実務経験を活かして、次の職場を紹介してもらいました。スキルアップがとにかく楽しかった。Web制作の経験値が上がっていく、自分ができることの領域がどんどん広がっていく。周りからのリクエストに応えられる喜びや充実感がありました。

組織で感じていたモヤモヤ

けれど、実務経験を積めば積むほど感じる違和感もありました。組織の中で仕事は縦割り。わたしのポジションではお客様と直接会って打ち合わせすることなく、制作物を納品していくことがほとんどでした。

企業組織では効率や利益率などを考慮した「当然の仕組み」と言えばその通りなのですが、制作現場にいたわたしには「なぜ?」と疑問が残りました。ディレクターからの指示に基づいて作業を進める日々、サイトのコンセプトになる土台の部分はそこそこに、見た目の部分を作っていく過程で「なぜ、このデザインなのだろう?」「このサイトは誰が見るんだろう?」「誰のための何のサイトなんだろう?」と思うことがしばしばありました。

プロジェクトは順調に進んでいくものもありましたが、そうでない場合も少なくなく、

途中で方向転換や大幅な修正が発生したり、時には仕様が全てひっくり返ることも。仕様変更の理由やそれまでのプロセスの共有はあまりなく、修正指示という結果だけが伝えられます。組織で働く上では致し方ない部分ではあると思いながら、やはり「なんで?」と疑問が残りました。

理不尽だな、まるで機械の一部。自分の持ち場でいかに効率よくOKが出るものを作るかが求められ、人と人が一緒に「ものづくり」をする良さが感じられない。クリエイティブな要素があまりなく、いつの頃からかそんなモヤモヤを抱えながら勤めるようになっていました。

思い出した、最初の夢

会社や職場が変われば、この疑問や違和感は解消されるかもしれないと思い、いくつかの会社に所属しました。「スキルがもっと上がるといいのかな?」と制作に

特化した会社に行ってみたり、「規模の問題かな?」と誰もが知っている知名度の高い大手企業に行ってみたり。けれど、いくら会社や職場を変えて結果は余り変わらず、似たようなことが起きていました。

ひとつの会社に長く勤めたい、出来ることなら終の棲家になるような職場に行きたいと、いつも思っていました。新しい会社に行くときは「次こそは!」と意気揚々と職場に向かいました。自分の経験値は上がっていく、給与も上がっていく、自分に与えられた仕事をこなすことで役に立っている実感もありました。

しかし、半年、一年と所属していると「この会社この職場に、あと5年10年いたいかな?」と考えた時、「いや、、」と思ってしまうのでした。終の棲家になるような職場を一生懸命探してきたけれど、もしかしたら、そんなものはそもそも無いのかもしれない、という考えがアタマをか

すめました。もちろん、会社や組織ばかりに要因があったのではなく、自分自身の至らなさも多分にあったと思います。

そんな時、「顔の見える人と直接話をしながらホームページをつくれたら!」という想いが強くなりました。それは、Webスクールに通い、初めてのプロジェクトに就いた頃に、ぼんやりと思い描いていたものでした。

規模は小さくていい、素敵だなと思う近所のお花屋さんや行きつけのカフェなど、応援したいと思える事業をしている人のサイトが創れたら、それで自分が食べていければ、それで十分なのではと考えるようになりました。

